

リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（喜多方市）

議事録

日時：平成30年7月16日（月）13：30～

場所：喜多方プラザ文化センター小ホール

議事

○南山総括調整官 それでは、お時間になりましたので、原子力規制委員会のリアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関します喜多方市での住民説明会を開催させていただきます。

本日、司会進行を務めます、原子力規制庁の南山でございます。よろしくお願いいたします。

それから、私の左手から、原子力規制庁の武山監視情報課長でございます。それから、滝田補佐。それから、原子力規制庁から河村上席放射線防災専門官でございます。河村がモニタリングのほうの専門……。

○参加者 すみません、ちょっと話し言葉がよく聞こえないので、もっとはっきりお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。いろいろ御指摘いただいて、ありがとうございます。河村が放射線の測定の専門ということでモニタリングを担当してございます。

本日、会場、大変涼しくなっておりますけど、外のほう大変暑い中、それから祝日もかかわりませず、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。この場をおかりしまして感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それから、今日、喜多方市役所の方にも同席いただいておりますし、いろいろと日ごろから御協力いただいておりますことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、本日、この書面に示しました資料に基づきまして、また、皆様のお手元にもございます資料に基づきまして、まず、原子力規制庁のほうから説明をさせていただきたいと思います。その後に、皆様方から、できるだけ多くの方に率直な御質問、御意見をいただきまして、この限られた時間ではございますけれども、この会を有意義なものにしていきたいと、このように思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○武山監視情報課長 原子力規制庁、監視情報課長の武山と申します。こんにちは。

では、ちょっと座らせていただいて御説明させていただきます。お手元の資料、まず最初のページを開いていただきたいと思います。本日のスケジュールというのがございます。今日はこれから御説明をするわけですが、一応終了の予定の目処としては15時半を目処としております。この後、「はじめに」ということで今回の住民説明会の趣旨について御説明をさせていただくとともに、その後に福島県内のモニタリングポストや放射線量の現状について御紹介をさせていただきます。また、福島第一原発の現状についても御紹介をさせていただき、その後に我々が提案する一つの見直しの案ということについて御説明をさせていただくと。その後に質疑応答ということがございます。

次のページをお開きください。「はじめに」とございます。福島第一原子力発電所の事故の直後、まずは測ること、状況を継続的に見ていくことが重要と考えまして、数多くのモニタリングポストが設置されてきました。現在は、既にほとんどのところ、放射線量が低い値で安定して推移しています。事故当初とは放射線量の状況が変わってきているということの後でデータでお示ししたいと思います。

また、行政上の課題として、設備の耐用年数、あるいは現実的には予算のことも考えなきゃいけないということでございまして、整理が必要ではないかというふうに考えているところでございます。私たちは、状況が変わればやり方も変えていくべきなのではないかと考えまして、今回、モニタリングポストの配置を見直すことについて提案をさせていただいております。そして、住民の皆様がどうお考えになり、どうお感じになるか、それをお伺いしたいということでございます。

次のページをお開きください。福島県内の放射線監視体制ということがございまして、この赤だとか緑だとか青だとか三角、いろいろ点がありますけれども、これが福島県内のモニタリングポストの分布を全部表しているものでございます。

この中で赤い、まず、リアルタイム線量測定システム、2,974台ございますけれども、これは学校、それから保育園、幼稚園、そういったところにつけているところでございまして、その放射線量の状況をこれでもって見ることができるというものでございます。

緑色でポツというのが、ちょっと見えにくいかもしれませんが、ございます。これは可搬型モニタリングポストというものでございまして、可搬型といった、いわゆる持ち運びができるというものが、もともとはそういうものだったんですけれども、それを固定して使っているというものでございまして、これが576台でございます。

それから、四角い青ですね、水準ポストというのが12台ほどございます。これは、いわ

ゆる全国、もともとは、実は全国47都道府県に1台ずつございました。これが事故後増やしまして、福島県に関しては12台ございますけれども、これは全国の放射線の水準を定期的にはかっているんですけれども、ほかの県と比較してどのくらいかというのをずっと測っているというものでございます。

それから、三角がありまして、これは福島第一・第二原発の周辺が主なんですけれども、監視ポストというのがございます。これが39台ございますけれども、これは原発で異常があったときに、これでもって避難するかしらないかということについて決めるためのポストというものでございます。このようなポストが幾つかあります。

また、実はこれ以外に、これは主なポストということでございますけれども、県や市町村のほうでリアルタイム線量測定システムと同じようなシステムの線量計、ポストを160台ほどぐらいつけています。これはまた別のものになっております。

それから、次のページを御覧ください。次のページは、先ほど御紹介した赤い丸のリアルタイム線量測定システム、いわゆる学校とか保育園とかについているものでございますけれども、このような大体2種類のものがついています。基本同じような、同様の性能になっておりまして、誤差が大体20%ぐらいというのがあります。測定範囲に関しては、ここに書いてありますが、99.99 μ Sv/hというところがございます、後で御紹介するものに比べて低いレベルのほうの線量をはかるというものでございます。

リアルタイム線量測定システムは、主に、いわゆるセシウムで汚染された比較的線量が高いところでそれなりの精度というものを示すものでございまして、いわゆる福島の事故に由来する、その場の線量の影響というものを見るということに適しているという特徴がございます。これ大体、今、平均値を10分に1回ぐらい送信をして、皆さんのほうに見える形にしているというものでございます。

それから、次のスライドでございますけど、これは可搬型ポスト、可搬型のモニタリングポストでございますけれども、これもこのような形のものがございます。こちらに、喜多方市には8台ございますけれども、これは少し精度がよくて、低い線量のところは10%以内、高くなると10%以上という形になりますけれども、というのがございます。こちよっとわかりにくいかもしれませんが、測定範囲で、先ほどシーベルト、Svというのを書いていますが、こちらGyという、グレイと言われているものの単位を書いているんですけれども、これは、いわゆる空気に吸収されるエネルギーの量でございまして、これを、いわゆる我々が言っている被ばく線量、こういったものに近い量として、周辺線量当

量という値があるんですけれども、それを表示していたのが先ほどのリアルタイム線量測定システムというところで μSv という単位になっているんですけれども、こちらは生で、吸収されるエネルギーの量をそのままはかっているんで、そこは Gy という単位になっていますけど、基本的にほぼ同じような値、ほぼ同じ値と考えて結構でございます。

こちらは、先ほどのリアルタイム線量測定システムと違って、セシウム以外のいろんな核種に関して、より正確にはかるという特徴がございまして、また、より広い放射線のレベルまではかることができるということでございまして、これは先ほど御紹介しました監視ポストと言われている原発周辺に設置されているモニタリングポストですね、こちらと同じような性能になっていまして、いわゆる予期せぬ放射線とか放射能による影響を見るという目的のためについているようなものと同じ性能がございます。こちら10分平均値を、10分に1回送信なりをして見ることもできるというものでございます。

それから、先ほどちょっと申し上げました四角い青いやつで水準ポストというのが12台ありますけれども、これはより低いところのレベルの線量をはかっていることになっていまして、いわゆる全国水準ということですので、大体、先ほど $99.99\mu\text{Sv}$ という値でしたけど、こちら水準ポストの場合は $10\mu\text{Gy}$ という、 μSv なんですけれども、低いところのレベルのものをはかって全国平均、全国の地域と比較しているというものでございます。そういうものがございます。

それから、次のページ、放射線量の状況というのがございます。これは喜多方市のリアルタイム線量測定システム83台平均空間線量率の推移でございましてけれども、この青い帯がございましてけれども、これは47都道府県に各1基設置された水準ポストにおける事故以前の17年間、1993年4月1日～2010年3月31日まで、これの測定値の一日の平均値ですね、この範囲を示しているものでございまして、一番低いところだと、青森県で0.010、一番大きなところで山口県の0.115という数字がございましてけれども、そういった範囲の帯になっています。この青いポツが83台の、いわゆる平均の、全部83台を平均した値として推移を述べているわけですがけれども、平均ですがけれども、この青い帯の中に入っている。いわゆる事故前の水準、全国水準ですがけれども、その範囲に入ってきているというのが現状でございます。

また、途中くぼんでいるところがございましてけれども、これは雪の影響とか、放射線量が遮蔽されて一時的に低くなっているというものでございます。

それから、次のページを御覧いただきたいと思っております。これは喜多方市における83台の、

これは一個一個のモニタリングポストについて、昨年の4月から今年の3月の平均値がどういところの範囲に入っているかということグラフ化したものでございまして、一番高いところで0.10～0.11、これの間に2台ありますけれども、このような範囲に入っているということでございます。

次のページを御覧ください。福島第一原発の現状でございます。現状、まず原子炉建屋、原子炉建屋は今一部壊れているところがございますので、当然ながらガス状の放射性物質というのが放出されているところがございます。ただ、これは非常に今、レベルが低くなっておりまして、原発の敷地の境界で、年間この0.0005mSv、非常に低い値です。μSvという、さらに1,000分の1のオーダーのやつで言いますと、0.5μSv、年間ですけれども、それよりも低くなっているという現状がございます。

また、いろいろがれき撤去作業等も行われておりますけれども、原発敷地の境界、ここでも大気中の放射性物質の濃度は法令基準以下となっているということでございます。法令基準といいますのは、セシウムであれば1m³当たり20Bq、こういうレベルですけれども、こういうレベル以下になっている。これは通常の、ほかの原発と同じレベルでございますけれども、それ以下になっているということでございます。

それから、次のページ、見直しについてでございます。今まで御説明したとおり、放射線量が低く安定しているということでございます。また、当然、測定器には寿命がございます。それから、寿命も大体約8年と言われているものでございますけれども、それから、あと予算ですね、これも当然、維持するためにはお金、予算がかかります。これについても、今、復興予算でもってこれを手当てしているわけですけれども、平成32年度末まで、いわゆる平成33年3月までが今、法律上の期限になっていまして、そこでもって予算がぷつりと切れてしまうということがございますので、そういったことも考えて、今のうちから、すぐに予算がなくなって、あるとき突然全部なくなってしまうということがないように、今のうちからどうすべきかということについてお考えをいろいろと聞いて決めていきたいというものでございまして、リアルタイム線量測定システムについて、測定を縮小して合理的な配置にしたいということでございまして、その絵を一応一つの絵として示したものでございますけれども、これは、いわゆる赤い丸ですね、赤い丸に関して、先ほど2,974台ございましたが、そのうち、いわゆる避難指示区域等以外のところの2,400台、これをなくしたとした場合、このような絵になるということでございますが、緑または青、三角、こういったものは残る形になっていまして、このような分布に維持されるというこ

とが一つの案としてございます。

それから、次のページを御覧ください。身近な放射線量をはかるための方法ということでございまして、これは、いわゆるリアルタイム線量測定システムだけではなくて、このようなハンディーなシステム、モニタリングできるものがございます。これはボタン一つで測定ができるというものでございまして、私のほうでもこういう、このぐらいの大きさのものです。多分、皆さんも御存じだと思いますけど、これは喜多方市さんのほうにも今131台貸しております、ここから、今は割と落ちついてしまったので一月に1台か2台かわかりませんが、そのぐらいの台数、お借りをして市民の方が測定に使っているというふうに聞いていますけれども、このようなものがございます。こういったものを測定、用いることによって、モニタリングポストは、実はその設置している場所、当然ながらそこに設置している場所の放射線量を測定することはできますけれども、そこから離れたところについては、当然、放射線が減衰してしまっはかれない状態になりますので、モニタリングポストも、やはり場所もいろいろ制約がございますので、御自分が好きなところに行って、ここがどうなんだろうなというのをはかる上ではこういったものが一番適しているのではないかと考えています。このようなものがございます、ということでございます。

今回、このような形でモニタリングポストの配置の見直しについて、一つ御提案をさせていただいておりますけれども、この後の質疑応答で住民の皆様がどうお考えになり、どうお感じになるか、それをお伺いしたいと、こう思っているところでございます。

また、今後伺った御意見について、どう対応していくか、どうモニタリングをしていくべきかを市町村などの関係箇所と協議をして検討していきたいと、こう考えている次第でございます。

次のスライドは、この資料について、規制委員会、規制庁において問い合わせ窓口を設けております。フリーダイヤルでございます。ただ、時間の制約もございますけれども、一応フリーダイヤルでお問い合わせにお答えするという窓口も設けております。ぜひよろしく願いいたします。

以上でございます。

○南山総括調整官 それでは、まず、今日お持ちした資料につきまして、この何ページのどこら辺が、もうちょっと詳しくとか、ここをもうちょっとどう思うかとか、そういうことで結構でございますが、どなたか、ある方は手を挙げていただいて、では、どうぞ。ちょっとマイクが参りますので、少しお待ちください。

○参加者 すみません、そもそも原子力規制委員会って、どういうお役所なのか、どういうことをされているのかについて説明いただきたいんですが。

○武山監視情報課長 原子力規制委員会は、いわゆる法律に基づいて、原子力施設を規制して、安全、それから、人と環境を守るとというのが一応使命になっておりまして、原子力規制委員会というのはそういう組織でございます。これは福島第一原子力発電所事故が起きて、以前あった組織が、そういう使命を全うできなかったという反省に立って、改めて再編をしてつくった組織でございます。原子力規制委員会というのは5人の委員がいます。これは学識経験者の方でございますけれども、その委員の方が科学的に原子力施設について、科学的な見地から安全性に関して確認をしていくというものがもともとの発端でございます。

もう一個は、原子力規制委員会の中に、の事務局ですね、原子力規制委員会5人の委員の事務局が設けられていて、それが私どもが属している原子力規制庁という名前になっていますけれども、こういうところが事務局としてございます。したがって、その5人の委員の方が最終的にいろんなものを決めて、いろいろ御存知かもしれませんが、原子力発電所の新しい基準をつかって、その基準に合っているかどうかのチェックをしているとかというような形で、原子力発電所のみならず、原子力施設全体について審査なり、検査をしていくということでございます。

○南山総括調整官 よろしゅうございますか。

では、どうぞ。ちょっと待ってください。どうぞ、座ったままで結構でございます。

○参加者 2点ばかり教えてほしいんですけれども、一つは、復興予算がなくなる、もしくは減額されるというのは、もう決定された既定のことなんでしょうか。それが一つ。

あと一つは、今のモニタリングポストは公のデータだと私は思っているんです。それで、個人に貸し出しをする線量計のデータは公のデータとして認めてもらえるんでしょうか。その2点です。

○武山監視情報課長 まず、復興予算なんですけれども、今、予算は法律で決められていて、今の法律上は33年3月で実は終わりというのが明記されているので、このまま見直しも何も、その法律とかが見直されない限りはなくなってしまいます。ただ、報道等いろいろな御意見、いろいろあると思いますけれども、当然その33年3月で終わってしまうのは、やはり問題ではないかとかという意見が当然、今あります。したがって、そういうものについては、今、これは法律の話なので、実はもともと国会で決めなきゃいけない話なので、

政治家の方々がいろいろ動いてはいると思うんですけども、実はどうなるかはまだわからないんです、実際ですね。多分、何かしら残るのかもしれませんが。ただ、我々は一応、今の法律に従っていろいろ仕事しなきゃいけないものですから、我々も、今、法律上はもうなくなってしまうということは、それは決まっているところです。ただ、先ほど言ったように、法律を見直してまた延ばすということもあるでしょうが、そこはまたそうなったときには状況が変わるかもしれないということで、とりあえず今はそういうふうな状況でございます。

それから、もう一つは、貸し出しですね。この貸し出しは、公式な値、難しいんですけども、基本、この測定器で測定を、よほどのことがない限りは普通に、よく言われているのは50cmの高さとか、1mの高さとかと言われてはいますが、そういうところではかれば、基本同じレベルの数字でございますので、この値、この数字の信頼性については同じレベルだと考えております。

○参加者 公のデータとして認めてもらえるということですね、行政のほうで。

○武山監視情報課長 公、例えば市とかで測定した結果を、何というかな、こういう値でしたというのを市のほうにお知らせをして、例えば市のほうで何かホームページかに載せるとかということをやるかどうかにもよるんですけども、要するに、何を公かという話なんですけど、市として測定しているのであれば、それは市としての公になるかと思うんですけども、やはり個人でもって測定しているということであれば、それは個人の多分ものになってしまいます。ただ、問題は、やはり公であろうが個人であろうが、同じレベル、同じ信頼性の数値かどうかということが問題だと思っていて、そういう意味であれば同じレベル、同じ信頼性、同じ精度のものだというふうに思っています。だから、その値について、公のものと同じ信頼が置けるものなんだというふうに我々は思っています。

○南山総括調整官 すみません、今お聞きになられたことの、どういうことでお聞きになっているのかというのは、機器のデータの精度的にはそんなに変わらないというお話をさせていただいたと思うんです。ただ、御質問の趣旨がちょっと違うんじゃないかなと思うんです。

○参加者 質問の趣旨は、私はこう思っているんです。今、設置して、今、動いているモニタリングポストのデータは、国であれ、県であれ、どこであれ、あのデータは正規のデータとして公のデータだって認めていただいておりますものだと一つ思っているんです。

ですから、今度はデータの精度の問題ではなくて、個人に貸し出しをした線量計についても、個人がずっと記録していった、一つのデータとして国なり、県なり、行政に提出した場合に、それはモニタリングポストのデータと同じように扱っていただけるんですかってお話を聞いたんです。

○南山総括調整官 何か難しい話かもしれませんが、ちょっと補足ありましたら。

○滝田課長補佐 監視情報課の滝田でございます。

一応、私どもは、総合モニタリング計画というものに基づいて、いろいろ各関係機関含めてモニタリングさせていただいて、それを公表しているというものでございますが、基本的に公表するかしないかということとお考えいただければと思いますね。だから、場合によっては、その個人ではかられている分においても、もし我々のところに、例えば報告とかがあって、その値を採用して公表したならば、それはあくまでも国が実質上やったという取り扱いになるというふうに考えておまして、基本的に、わかりやすく言うと国が公表しているかしていないかが採用されているかどうか、正式な値かどうかというふうに説明させていただくと、聞いていただければわかりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

○南山総括調整官 よろしいですか。

どうぞ、前、2番目の方。

○参加者 慶徳のオオタケといいます。

今、公式なものかどうかというお話だったんですが、喜多方市の場合、このはかった線量について全て書いたものが配布されております。これは公式ということだと私は思うんですね。この線量は、やっぱり私たちにとって大変重要な判定になっています。部分的に、やっぱり高いところはございますし、自分に近いところがどのくらいあるのかというのは、一番頼りにしているところなんです。そういった意味では、公式に発表されている数字というのは、いまだにやっぱり私たちの判断の材料になっているというふうに私は考えております。線量は変わらないというお話、手動式、自分ではかるものは線量は変わらないという話になりますけれども、大きく変わるのではないかなというふうに思います。多分、公式な、私たちに対する、住民に対する配布資料の中にそういうものがほとんどなくなるだろうし、そういうふうになったら、私たちが目に見えない放射能に対して、どういうふうに接していけばいいのかというものが失われるのではないかなというふうに危惧しております。よろしく御判断、お願いします。

○武山監視情報課長　そうですね、今、喜多方市のほうで測定されて、毎月ですかね、毎月、多分、一覧表の形で皆さんのほうにお配りされていると思うんですけど、その中に今回、見直したいと思っているリアルタイム線量測定システム、この測定値も実は入っています。そうじゃない値も実はあるんですね。これは今後の話になると思いますが、そういう一覧表にある場所についての測定ですね、これを公式な値をずっと出し続けているということについて、どういう形で出すべきかということだと思っています。今、83台のリアルタイム測定システムがこちらにあって、その値を一部、喜多方市さんのほうの中の一覧表にありますけども、それ以外のところは、このシステムを用いずに、これではかたりとかしているものが実は載っています。したがって、そういう意味からすると、これではかっている値とリアルタイム線量測定システムの値と両方、実は載っている状態ですので、先ほど私が言いました値の信頼性というふうに言いましたけれども、そういう意味からすると、この値はそういう意味では同じ信頼性だと。あとは、これではかるか、これをだから、例えば喜多方市さんのほうでこれでもってをはかるという選択をされるのであれば、リアルタイム線量測定システムは必ずしもそれでなくてもいいかもしれないということになりますし、いや、やっぱりこれじゃなくて、リアルタイム線量測定システムで測定するということであると、これじゃなくてこっちになりますとか、そういういろんな、必ずしもリアルタイム線量測定システムでなきゃいけないというものではないという、そういうことでございます。

○南山総括調整官　よろしいですか、今のところ。

○参加者　私は、やっぱり定点で観測し続けるというのが大切なことではないかなというふうに私は思っています。だから、続けていただきたいという私の意見でございます。

○武山監視情報課長　定点測定は大事だと我々も思っております。

○南山総括調整官　それと、これはそれよりも身近なところではかれるという意味でプラスになるというふうに考えておりますので、ちょっとそこら辺も含めて、ほかに御質問等あれば、先ほど、一番前の。

○参加者　高郷町のサトウでございますが、ちょっと素朴な質問なんですけど、モニタリングシステムというのは、放射性物質に境界があるとは思えませんが全国にあるんだろうと思うんですけども、特に今回、原発事故のあった福島近県などで、このモニタリングのシステムというのはどういうふうな配置になっているんだろうなというのがちょっと知りたいところです。

あと、9ページの原発の現状について、これはちょっと素朴な疑問なんですけど、この測定はどこでなされた測定なのかな。地上1mとかという基準があるぐらいですけど、どこで出された測定をここでは数値化しているのかなというのもちよっと気になったものからです。

あと、あの0.0005mSvというのは決して低くない値ではないんですか。今までの放射線管理の考え方からすると低い値とはとても思えないんですけども、これを低いと言えるのはどうしてかなというのをもうちょっと明確に教えていただきたいです。

あとは、先ほどの方と同じように、現状のモニタリングシステムはぜひ維持していただきたいという点で今日は参加しています。よろしくお願いいたします。

○武山監視情報課長 まず、ほかの県でどんなモニタリングポストの配置になっているかという御質問ですけれども、まず、原子力施設があるところについて、それは大体その原子力施設の周り30kmの範囲にモニタリングポストを配置しています。あとは、原子力施設がない県、ここにも幾つか配置していますけれども、本当に数個程度のものがあります、という形になっていまして、極端なことを言うと、モニタリングポストですね、今、福島は大体、先ほど言った3,600とかという値になっていますけども、全国レベルで言うと、それと同じようなものを数えると、大体4,800ぐらいが全国でありますので、したがって、3,600から4,800を引くと、大体1,200ですかね。その1,200の差が実はほかの県にあるというようなイメージになります。大体そんなぐらいになると思いますけれども、正確に言うと、1,000台ぐらいですかね、約1,000台ぐらいが福島県以外にあります。これ以外にも、もし緊急事態に何かあったときには、追加でモニタリングポストを置きに行ったりするかということもあったりとかするんですけども、そういったものはまた別なんですけれども、常時置いてあるという意味ではそんなふうな数になります。だから、ほとんどは福島県に実はあるということになります。

それから、9ページの福島第一原発での数字なんですけれども、実はガス状の放射性物質の測定は、いわゆる原子炉建屋から引っ張ってきて、いわゆる原子炉建屋からガスが出てきたものを、その付近でもって、それを捕集して、集めて、どのぐらいの濃度かというのを測定しています。この濃度から計算でもって実はこの0.0005mSvという値を出してまして、低いのかという御質問に対しては、通常、皆さんよく言われている年間1mSvというふうに言われていますけれども、いわゆるこれは1に対して1万分の5になりますので、1万分の5、実は低い値になっているというところですので、そういう意味では低い値にな

っているということでございます。通常、よく言われている1mSvというレベルですね。通常はその制限は1mSvになりますけれども、それに対して1万分の5の値ですので、そういう意味では相当低い値に今落ちついているということでございます。

○南山総括調整官 よろしゅうございますか。

○参加者 じゃあ、他県のやつはもう完全に、今、モニタリングポストは撤去する考えですか。

○武山監視情報課長 他県は、原発がある県とかは当然ながらその原発を監視するために要るということですので、ほかの県については撤去はしません。福島に関して言うと、そういう、先ほど御説明したポストが幾つかありましたけども、全部撤去するわけではなくて、そのリアルタイム、幾つかのポストで、例えば原発の監視用のポストとか、そういうものは全部残します、当然ながら。いわゆる全部で3,600ぐらいあるうちの、そのうちの2,400のポストに対してどうするかということをお提案しているということでございますので、残りの1,200程度、1,200ですか、1,200ぐらいのやつは残る形になるということでございますので、我々としてはできるだけ合理的に、当然残すものはあるんですけども、やっぱり低くなっているところについては合理化できるのかなということ合理化していくと、こういうことでございます。

○南山総括調整官 それでは、4番目の方。

○参加者 トウジョウと申します。よろしくお願ひします。

今日のこの説明会というのは、今後について皆様と一緒に考える会ということですので、私の受け止め方としては、一定程度線量は少なくなってきました、さて、住民の皆様、これについてどういたしましょうかというのが普通かなと思うんですけども、この配られた資料を見ますと、喜多方にはリアルタイム線量測定システムはゼロにして、という提案なんですよね。なんでそういうふうなことが出てくるのか、ちょっと私には理解できないんです。住民とこれからについて一緒に考えるのであれば、そういう提案をするのでなくて、さて、どうしましょうかというふうにご場で皆さんと一緒に相談していくのであれば少しは理解できますけれども、最初に撤去しますよ、さて、皆さんはどうですかでは、ちょっと納得できないというふうには私は思っているんです。

それから、先ほどの方もおっしゃっていましたが、平均値というのは意味がないと思うんです、あまり。その高いところもあるし、低いところもあるというグラフも示していただきましたけれども、私たち、毎月出されている線量に関心を持って、すごく高い関

心を持って見ているんですけれども、本当に学校でも高いところがありますし、それは除染によって多少下がっているというふうに思いますけど、だから、いつでも原発事故以来、この放射線について考えない日はないんですよ。私たちの、まあ私は年取って、60は過ぎているのであれですけれども、子どもたちはこの後どうなっていくのかな。低線量だから大丈夫ですよって、どうしてそんなことが言えるのかなって、いろんな不信感を持って、そして、この原発事故の行方を見ているわけなんです。これ、最初から皆様と一緒に考える会であれば、もう一回、この提案じゃなくて、皆さんの意見を十分に聞くということから始めていただきたいなというふうに思って発言させていただきました。

○南山総括調整官 ありがとうございます。最初のお二つほどあったかと思うんですけど、最初に撤去というところから意見を聞くというのはおかしいということかと思えます。

それから、もう一つは、平均値で意味ないということから、ちょっといろんな話に広がったと思うんです。言わんとするところは、平均値は意味ないということかと思えますけれども、ちょっとそこら辺、最初のほうから。

○武山監視情報課長 我々も、まずは何もなくて御意見を聞くよりは、こういうことを一つの提案としてどうかということで、それに対してどうだと。おっしゃるとおり、だから、もうゼロとか、けしからんじゃないかと、全部残してくれとか、そういう意見もあると思えますけれども、我々としては、一つの、まず案をお示しした中で、それに対してどうなのかということ、御意見を聞きたいということ。当然ながら、こういう御意見を聞いて、さらに我々としては具体的にどうしていくかということについては、また関係の箇所を検討していくということになりますので、まずは、これは出発点だと考えていただければ結構だと思います。別にこれで決めましたというわけではなくてですね、ということでございます。

それから、平均値のほうですけれども、これは先ほどの値で、8番目のスライド、8ページにスライドがあったと思います。これも平均と書いてございますが、これを実は去年の4月から今年の3月の1年間の中で、かつそれを一日一日の平均の分布というのを出しています。だから、例えばある日についてはどのくらいだとかということを示しているわけですが、そういうものを分布したものでございまして、これが一番、ある意味、正確な値だと思っています。ここの喜多方について言うと、本当にこういう0.11とか、こういうところのレベルというのが大体出ています。今、我々のほうで一つの考え方としては、除染基準という0.23という数字がございまして、そういうレベルよりを一つの目安と

して、それよりも大分低くなっているところは一つの見直しとして考えてもいいのかなというふうに考えているのがこの提案ということでございます。

○南山総括調整官　じゃあ、2番目の方。

○参加者　サイトウといいます。

福島第一原発の現状ということで2点ほど出されているわけですが、この現状というので、この2点しかないわけではないというふうに思うんですね。第一原発の中というのは、原子炉内から全部、原子炉の中がどうなっているのかもわからない、そして、放射線量も高くなっている。やっぱりそういう現状というのも、これが現状ではないというふうに私は理解をしています。そして、がれきの撤去についても、これは2013年だったと思いますが、3号機の取り出しのときに放射能が飛散をしたという事故があるわけですから、そういうようなことを考えていったときには、こういうようなことが現状だというように、今日の現状と今までの経過の現状というのをきちんと出さないと、我々には正確な情報が伝わってこないというふうに思うんですね。

それから、もう一つ、リアルタイム線量計ですが、説明でもあったように、これが今、学校と保育所だとか公民館だとか、そういうところに置かれています。私たちは、そういう置かれている状況によって、きちんと放射能が今どういう状況なのかというのがわかるわけです。国の予算とか、そんなことは関係ないです。今日来ておられる方々は事務方なので、規制委員の方々が来て、ここできちんと話を聞かなきゃいけないと思うんですよ。私はそう思っています。そのことに対しては、事務局の方だけなので、これは後で帰ってから、ぜひ規制委員会の中で、ぜひ取り上げていただきたいというふうに思います。

そして、先ほど言いましたように、学校だとかという、やっぱり原発事故以降、福島県では放射線教育というのに力を入れています。そういうことからしても、ただ、頭で勉強するんじゃなくて、きちんと目に見える、そして、安心できる数値が出ている、こういうようなことがやっぱり大事なのであって、リアルタイム線量計というものは当然、継続して設置すべきであるというふうに私は考えていますが、いかがですか。

○南山総括調整官　では、今いただきました2点あったかと思うんですけど、その9ページですか、この現状ということは、この2点だけが現状ではないということと、学校にあるということで、放射線教育に現場で使えるという御意見だったと思います。ありがとうございます。

○武山監視情報課長　まず、現状でございます。おっしゃるとおり、福島第一原発の中、

廃炉まだまだ溶けた燃料の取り出しについてどうするか、こういうような議論もございませし、過去、放射性物質が飛散をしたということで、いろいろと対策も必要だということで、いろいろとやってきました。これも大事だと思うんです。ちょっと今回これを、二つのことを書いたのは、その中でも福島第一原発からある程度距離があったところに対しての影響という意味では、そういう気体状のものが出てきたりとかということが一番影響としてはあるので、その状況として、今こういう状況になっているんですよということの御説明をさせていただきたいということでございます。これからいろいろ作業をしていくわけで、そういう作業の中でも、そういう飛散をするかもしれないということに対して、いろいろ手当てをしなきゃいけないと思いますので、そういう対策は当然やっていかなければと思いますけど、ちょっとそこはまだ、実は我々のほうでも、具体的にさっき言った燃料の取り出しの作業がどうなるかということもまだ見えませんので、今この段階でこうだということとはなかなか言えないんですけれども、正直言ったら今の現状なんですね。今はこういうふうなことになっていますということです。ただ、じゃあ将来そういったことが起きたことに対してどうするのかということについては、先ほど、我々のほうでモニタリングポストが何種類かあると申し上げましたけども、その福島第一原発の周辺に相当な数のモニタリングポストを設置しています。こういったものでもって、一つはいち早く放射性物質の状況を検知して、それでもって対策をいろいろ打っていくという体制を整えていますので、実はそういう役割のあるポストについては残すということにしていますので、というのが実態でございます。

それから、学校教育の観点でいろいろ残したほうがいいんだと、すべきなんだと、こういう御質問でございます。確かにそういう学校教育に使っているという御意見は只見町のほうでもお伺いしました。これも、だから一つの考え方としてはわかります。もう一個あるのは、例えば、これも先ほど言ったように、モニタリングポストを全部なくすというわけではないんですね。一部は、やはり残します。その残すものでもって教育をすることもいいのかなということも考えなくてはいけいかなというふうに思います。実際にこういうものでもって校庭を測定したりとかしていると聞いていますので、こういったものを使う、もしくはモニタリングポストも残るものについて、残るところが幾つかあって、そこでこういうものがあるんだということについて教育をするということも一つの手段としてあり得るのかなというふうに率直に思っているところでございます。

○参加者 今の事態というようなことを考えていったときに、現状はこうだというふうに

今おっしゃっているんですが、2011年3月12日に、いわゆる原子力の緊急事態宣言というのが出されているようで、まだ解除されていません。やっぱりそういう事態なんですよ。そういう事態だということを原子力規制庁が自ら、もうこれだけ線量が低くなったから大丈夫だなんてことは言えないだろうというふうに思うんです。私たち、やっぱりこの原子炉が爆発したときに、風の流れによって、これは変わっているわけです。今、喜多方は確かに低いです。風の流れによって全然違ってくるわけです。ですから、そんなことを考えていったときには、子どもたちに見える化ということでの放射線教育をぜひ私は継続してほしいというふうに今考えていますけれども、それだって、ここまでやればいいんじゃないんです。やっぱり国がきちんと責任を持ってそれだけ設置してきたものを、やっぱり子どもたちにきちんと伝えていかなきゃいけない。予算、防衛費が5兆何千億円になっていますけれども、私はこっちに使うべきだというふうに思っていますが、そこまではお答えになれないでしょうから、ぜひその原子力の、いわゆる緊急事態というなのはまだ宣言されて、解除されていない。これは当分解除できないでしょう。50年ぐらいたたないとできないと思いますよ。だから、そういう事態の中で、今、こういうようなものを撤去していくというのは、私はいかながなものかと、反対であります。いかがでしょうか。

○南山総括調整官 御意見としては大変貴重なところだと思いますし、まさに現実、緊急事態、まだ解除されていないという状況でございます。ただ、ここのモニタリングポスト、ここの周辺の地域のモニタリングポストというものは、飛んできた放射性物質が地表に沈着して、地面に沈着したものの状態が低く安定してきているということでございますので、そういう状態を鑑みて、この資料をつくったということでございます。それが一つ。

それから、原子力発電所の状況としては、少なくとも爆発的に臨界になるようなことはほとんどないということが今現状で維持されているということでございますので、ただ、デブリなどをどうとか、そういったような皆さんも御存知のとおり、まだまだわからない部分というのはたくさんあるかと思っておりますけれども、現状でそれが再臨界するようなことはまずないだろうというような状況まで十分に冷えてきているということが現状でございます。それを踏まえた上で、こういった考え方を示しました。ただ、御提案のように、学校教育で活用できるんじゃないかと、これもまた未来に向けて非常に有効なことかと思っておりますので、それをどうやって、逆に言えば予算化していくとか、そういったことも一緒に考えていければいいと思いますし、具体の提案をいただければ、なお、ありがたいというのが、今日、私ここにいて話しさせていただいた趣旨でございます。ありがと

うございます。

ちょっとほかの方もいらっしゃいますので。

じゃあ、後ろの方。

○参加者 教えてほしいことは、最後のほうのページに、現場の空間線量計で、これでモニタリングポストと同じ機能を持てるというお話が出てきましたけども、HORIBAの線量計は、ネットで調べると10万円するかしないか。だけど、このモニタリングポストはもう桁が全然違うぐらい高いです。そもそも、放射線の測定方式が違うんですね。

○南山総括調整官 ありがとうございます。放射線の測定の方式が違うのかという、違うんじゃないか、値段もこんなに違うしという。

○参加者 例えば、空間線量をはかるのにサーベイメータってありますよね。それだと数十万円もするじゃないですか。だから、測定もいろいろ方式があって、モニタリングポストに使っているのは、そういう意味では一番いい方式でやっているわけですね、高い方式。

○南山総括調整官 まず、このサーベイメータ、こっちには、今ここにお持ちした、このサーベイメータも半導体が検出器になってございます。それから、この外にもありますリアモニタインプのモニタリングポスト、ここに、資料にもありますけども、半導体形式のものでございます。その本体をなかなか、鍵をあければ見られるんですけども、中に検出部分としてこういったものが入っています。おぼけ型の、円筒型の、中にですね。こういうところに入っていて、なおかつ、それに通信機能をつけていますので、はかったものを全国のホームページで見られるような形でシステム化されておりますので、そういうことで、NTTの回線で10分ごとにデータを送っています。そういうところが、このサーベイメータにはありません。それから、モニタリングポスト、太陽光で発電していますので、そういったシステムも入っていますし、それから、蓄電池も入ってはいます。それがリアモニタインプのものでございます。これにはそういったソーラーシステムが入っていませんので、そういった状況が違ってきているといった形で、検出器、それ自体の性能というよりも、そのほかの周辺の機器のお値段があるということかと思っておりますが。

○参加者 でも、HORIBAのやつはもっと安いですからね。サーベイメータでももちろんですね。だから、自分が言いたいのは、せっかくそういう大きいようなものを設置して、2011年はなかったけど、2012年からはかるようになったわけですね。それを我々として、せっかくね、書いてあったけど、オオタケさんがおっしゃったように、定点観測で見える化されて教育にも使えるものを、今わざわざ撤去する住民側の理由はないですよ。

それから、ほかの方からちょっと教えてもらったんですけども、もし柏崎刈羽、新潟県で原発が再稼働して、それが事故になったら、それから、東海も何か再稼働が認められたそうで、だから、風の向きによっては我々のところにやってくる可能性だって、ゼロであってほしいけど、ゼロじゃないかもしれないわけですよ。そういうときにああいうものがあると、とても、やっぱりみんなで見える化、共有できるので。もっと言えば、北朝鮮で核実験やめると言っているけど、実はやっていて、何か間違った爆発が起きて、そういうことを考え出せば、あれを撤去しない理由は、つまり撤去には強く反対します。ぜひ継続してください。

以上です。

○南山総括調整官 すみません、HORIBAのことは。

○滝田課長補佐 性能の話がありましたので、改めてちょっと御紹介させていただくんですけど、こちらのHORIBAのRadiというやつですけど、これとリアルタイム線量測定システムのものとはほぼ同等のものです。金額で高い、これと比べて高いというのは、先ほどもちょっと説明がありましたけど、実際に平均的に、当時、大体リアルタイム線量測定システムというのは80万ぐらい平均でかかっています。我々が今後残して行って維持していきたいという、特に可搬型ですね、これは大体500万ぐらいかかっています。もう性能としても全然格段に違います。そういった意味で、結局、ハンディーではかるものの結果と、リアルタイム線量測定システムは変わりません。実際、ちょっと前にも御指摘があったんですが、いわゆる撤去ありきの話を持ってくるのはいかがなものかということで、実はその撤去というのを、我々が当初、我々というか文部科学省なんですけど、平成23年の補正予算で設置させていただいて、実は平成24年度末までの運用でリアルタイム線量測定システムというのは設置させていただいたんですね。それはなぜかということ、いわゆる事故後、いろいろ福島県内に飛散した放射性物質への子どもへの影響がどうであるかということを見るため、監視するために設置させていただいたものなんですね。だから、そういった意味で、行政目的としての事業の目的としては、低く安定している状態では、要するに24時間監視で人も張りつけてやる必要はもうないのではないかということで、一応その事業に対しては、その当時の考え方の事業に対しては一旦終わらせていただいて、それ以外については、じゃあ今後ポストがあります、本当に引き抜かなければ残っています。じゃあ、そのポストを本当に引き抜くのか、それとも、やはり御意見があるように教育目的やそれ以外の安心というものでも使うことができます。だけど、行政目的として終わったものは一旦

終わって、じゃあ、そこで皆様から御意見をいただいて、じゃあ、全部残すのか、どうなのか、必要なものはどれなのかというものをお聞きしたいというのがこの場なんです。先ほども言いましたように、そういった意味での性能として、あと監視ですね、北朝鮮もなんですけど、先ほど言ったように、当時のリアルタイム線量測定システムは当時の子どもへの影響を見るもの。実際、北朝鮮だとかその他、他の新潟とかの施設もそうですが、そういったところから来る放射性物質に対しての監視というのは、リアルタイム線量測定システムではやってはおりません。実際、全国で設置している水準ポストに対して、過去、例えば核実験が起こった、実際、つい去年もございましたけど、過去2年間のデータを見て、その推移等を比較して影響があったかないかというのを判断するもので、だから、そういった核実験だとか、例えば福島においても、今ここに出していますように、可搬型等を中心としたもので推移等も含めて見ていくと。やはり高性能のもので我々は見ていくという考えのものでございます。

○南山総括調整官 ちょっと1個補足させていただきますが、子どもの影響と申しますか、子どもが寄るような環境の影響等度合いを見ていたという、見てきているということですので、子どもさんの被ばく線量そのものをはかっているものではありません、このモニタリングポストは。

それから、先ほど申し上げました、今もありましたけども、モニタリングポストをゼロにするわけではございません。これは誤解のないようにお願いいたします。

では、ほかの人。2番目の方。どうぞお座りになってください。

○参加者 ありがとうございます。今お話をお伺いいたしまして、本当に、先ほどのお話では、規制委員会は何をしているのかというお問いただしがあつたときに、科学的な知見から安全性について確認をしている5人のメンバーがいるんだというお話をいただきました。それで、今日おいでになっていらっしゃる方は、きっとその場で、規制庁の中でお仕事をされている方かなと思いますので、そういういろいろ判断された委員の方々の考えを多分ここでお示しいただいているのだろうと思っております。なので、本当に私たちがお尋ねしたいこと、事務方の偉いさん方で、本当に規制委員の皆様方の相談された内容をお伝えして、そして、私たちが言ったことをまたそこに伝えなくてはならないというお役目かなと思っておりますが、今ずっとお話を聞いていて、非常にね、ちょっと気になることがありました。今、まさかこれから先、再臨界はないと思いますが、というお話をされましたよね、「思います」とね。再臨界はないと思いますがということで、されましたよね。

私は、つい先週、昭和46年の第一原発がつくられるころの県議会の議事録を読んでみました。そのときに答弁されたのが、どなたか、当時の係の方だと思いますが、「1万年に1回も事故は起きないんだ」と答弁していらっしゃったんですよね。1万年に1回ですよ。まだ、この第一原発が稼働し始めて何年ですか。これだけの自然災害だとおっしゃるかもしれませんが、これだけ苛酷な事故が起きて、そして、デブリがどこにあるかもわからない、ちょこっと穴をあけただけでも空間線量が上がる、これからカメラを入れて中の状態を調べなくてはならない。そしてまた、去年ですか、一昨年ですか、十万山の火災がありましたよね。高濃度に汚染されている山が火事になるということは、全くフィルターのない焼却炉と同じなんです。そういうふうな、いつどこで何があるかわからないような事故の状況、そして、経過がまだ安定していない状況の中で、私たちがよりどころとしていたのはこのモニタリングポスト、それが「正しい数字出てないんじゃないか」と言っている人もいますよ。でも、私たちは身近なところで、学校の校庭の隅に立っている、それが、「あ、今日は0.1ならば、ちょっと高いけども大丈夫か」とかと言いながら来ています。それが、今、何も状況が変わらない中で撤去の話が出されています。その多くはお金がかかる、耐用年数が10年しかもたない、これから継続するにはまた新しいものに変えなくてはならないとかいう、いろんな試算的な面もあるかと思いますが、私たちは原発事故を10年、20年で済むとは思っていないんです。ですから、やっぱりきちんと私たちの身近な中で、この3.11事故があったということを意識しながら暮らしていく、この状況を規制庁の皆さん、そして、それをつかさどっている事務の皆さん方に御理解をいただきたいと思っています。

もっと、とんでもない答弁された方もいらっしゃるんですよ。7月5日、規制庁に……交渉に行っていますよね。そのときの方が、こういう答弁をされた。私たちね、何ですかと思ったんですけど、中国の観光客の方がモニタリングポストのある福島県には行きたくないと言っているんだというような話がされたそうです。それは、間違いなく、そこに出席された方が言っているので間違いはないと思いますが、そんな理由でとられたら困りますよ。

もっと、これ、本当、汚い言葉で言えば「下衆の勘繰り」ですが、今度、福島県がオリンピックの聖火のスタート地点になりましたよね。ランナーがモニタリングポストが映っているような道路を走らせたくないというのが国の考え方なのかなと、本当に疑いまでしてしまいます。ですから、そういう疑いをされないように、きちんと私たちの生活の中に

測定されるようなものを残してほしい。これは福島県全体の問題として考えていただきたい、それが願いです。設置をやめることについては、これは反対、このまま継続してほしいというのが、いろんな状況、いろいろ話をしましたけれども、私の思いです。ちょっと長くなって、ごめんなさい。

○南山総括調整官 ありがとうございます。何点かございましたけれども、要するに、原子力発電所がまだどうなるかわからない状態の中で不安を感じているのに、今、この周りが変わらない状況になってきているとって抜いてもらいたくないと。縮めて言えば、そういうことが一つあったかと思えます。

それから、中国の人からこういうことを言われたということを耳にしたということについて、再度、もし、あれば、あれですけど、実際、聞いた人間がそのように当事者同士で聞いた話だということは間違いありませんので、そこは、そういう話があったというお話を答弁させていただいたんだと思えます。事実でないものを話せませんので、我々は、そういうことを……。

○滝田補佐 その答弁をしたのは、私でございます。それは、なぜ、そのとき、そういう話になったかといいますと、実は、風評被害対策について御意見がございまして、実際、私は一昨年等、韓国だとか台湾、それから中国、マレーシア等、規制等をやっているような国々に対して、要するに、風評被害はないんだという形で逆に説得するためにお話をさせて、いわゆる規制庁代表として放射線に対してお話をさせていただいたんですね。

そのときに、リアルタイム線量システムも含め、福島にはこんなにたくさんモニタリングポストがありますと。この数値を見ていただければ、本当にリアルでわかりますと。だから安心してくださいということを訴え続けたんですね。そうしたら、中国大使館の方から、いや、そうではないんですよと。日本には、たくさんの中国からの観光客が来ていますよね。だけど、福島に行っていますかと。なぜ、行っていないんだと思えますかということと言われて、結局、そのモニタリングポストが問題なんですと。

要するに、本当に低くて……。

(発言する者あり)

○滝田補佐 すみません、ここだけは聞いてください。要するに、海外の人は、例えば、これをちょっと、この状態を見てもらえますか。この状態を見たときに、海外の人が、要は、放射線の高いところにポストがたくさん設置されているんだという見方をされたんですね。だから、要は、数値を見て言われているんじゃなくて、ポストがたくさんあるとい

うことは、まだ問題がたくさんある。もし、問題がないのであれば、適正なほかの、例えば原子力施設のある他県と同じようなレベルに整理すべきじゃないんですかと。整理ができないということは……。

(発言する者あり)

○滝田補佐 いやいや、私じゃないんです。すみません。ただ、言われたことを、そのまま伝えているだけなので。

結局、ポストがそのまま残っているということは、これからもやっぱり福島第一に問題があるから、そういうところは残しているんじゃないんですかと。だから、そういうふうに言われたんです。だから、そういう見方をされる方もいるということだけをお伝えしたかっただけの話で、だから撤去するという話ではないです。

○南山総括調整官 そういったことを言われたので、こういうこともありましたということなので。要するに、外の人はいろんなことを言うかもしれないけれども、そうじゃないんだと。やっぱり地元の皆様方がどう考えていらっしゃるのかという、だから、それをお聞きしたくて、この場におります。文句で結構でございますけど。

すみません。そうしたら、お待たせしました。真ん中の。

○参加者 塩川のサカイと申します。

2011年に事故が起きて、それから7年以上経ったわけですよ。それで、この間、私たちも、塩川町で2回、2年連続して、今、塩川の町内、いろんなところを放射能の測定をやりました。先ほど言われた機械を借りてね。その結果、やはり今あるモニタリングポストでもかなり高く出るんですよ。というのは、測る場所が違うと、やはり違うんですよ。要するに、例えば、河川だとか、あるいは公園の遊具のそばだとかというところは、かなり、その当時から2倍～3倍ぐらいの値の数値が出たんです。1年、2年過ぎて、2年経っても同じような状況が続きました。今、7年経ちました。

私が言いたいのは、一つは、先ほど安定しているというふうに言っていましたけれども、しかし、事故前の水準に戻ったのかといたら、そうではないんですよ。今だって、高いわけですよ。そして、例えば、私たちの周りのことについて言えば、例えば、山でキノコだとか、あるいはタケノコだとか、そういうものは、いまだに、とって出荷はできないんですよ。そういう状況が続いているんですよ、この会津でも。川のほうの魚も、これを売ることができないんです。それは、なぜかという、放射能に汚染されたそうしたものが市場に出回ることが大変だということで、国自身がそれを規制しているわけで

すよ。

そういう中で、今回のような、いわゆることをやるということは、我々は理解できません。というのは、例えば、いろいろな問題がありますけれども、一つは、そうしたものがまず売れるような段階になったら、まだいいんですけど、それがまだ解除されていないということと、まだ、ここは、会津では除染を全くやっていませんよ。除染そのものは。会津、喜多方ではね。

○南山総括調整官 ちょっとお待ちください。喜多方の話ですよ。喜多方で今現在、出荷制限をかけられているものがあるんですか。

○参加者 ありますよ。

○南山総括調整官 ということですね。そういうことを、今、会津とおっしゃったので、聞き直しましたけれども、そういうことなんですね。

○参加者 そうです。

○南山総括調整官 あと、ごめんなさい。塩川町。喜多方市の塩川町。

○参加者 塩川町。

○南山総括調整官 すみません、ありがとうございます。

○参加者 ここは、そのときから、喜多方の市内よりもずっと高かったんですよ。それが非常に高かったので、そういう影響は今でもあります。ですから、リアルタイムの線量計でも0.11とか示すところ、大体、塩川だけ。高い水準を示しているのはね。

○南山総括調整官 ちょっと確認させていただきますが、塩川町にあるモニタリングポスト、というのが塩川町にもありますか。

○参加者 あります。当然、あります。

○南山総括調整官 その塩川町のモニタリングポストは、市内のほかのポストに比べて数字が今も高くなっているという。

○参加者 それは0.08とかという、さっきも話していましたが、0.1を超えるところも何カ所かあります。

○南山総括調整官 ありますということですね。ありがとうございました。

○参加者 ですからね、そういう意味では、事故以前に戻ったわけじゃないんですよ、放射線量が。本来は、規制庁が言うように、確かに事故以前に戻ったから、もう、これは安定したということを言えると思うんですけども、しかし、そうは言っても、まだ事故以前に戻っていないわけですし、それでモニタリングポストを撤去するというのは我々には

考えられない。

それは、規制庁は全体の国の予算とか何かで考えているのはわかりますけれども、それで考えているわけじゃないわけでしょう。それと同時に、やっぱり、この事故を起こしたのは、私は国も責任があるし東京電力が最も責任があると思うんですよ。それに対して、こんなことをやったら東京電力を免責しているようなものであって、我々は、やはり、そうした責任をきちっととってもらい上からも、こういうものはきちっと、我々が、住民が納得するまで、こういうものできちっと測定して、そして、それがどういう状況にあるのかということをもみんなで見られるような状態をずっと続けていただきたいと思うんですよ。そうでないと、やはり安心して住めないと思うんですよね、今、この時点でも。

そういう意味では、ぜひ、まず、撤去ありきという考え方というのは、我々は納得できない。撤去が先に来ている、それで皆さんと一緒に話しましょうと。それを前提に話し合いましょうというのは、本末転倒も甚だしいんじゃないかというように感じますので、そういう意味では、撤去ありきではなくて、やはり最初から皆さんと一緒にこの問題について考えましょうという立場で、国のほうは、規制庁は臨んでほしいということだと思えます。

○南山総括調整官 まさに、そういうことで、撤去ありきではありません。ということで、この場を設けさせていただきましたので、そこは違えますと言っていますので、ここに来て意見をいただく方々は、そうではない方というふうに僕は思いますので、ぜひ、そこら辺は御理解いただければと思います。我々も、撤去ありきで、ここへ来ているのではございません。

それで、すみません、2回目の方はちょっと置いていますけれども。

○参加者 1回目、質問どうぞと言ったんですよ。だから、私、意見を1回で質問だけしたんです。

○南山総括調整官 すみません。改めて質問と、それから意見と分けようと思ひまして、そのように申しあげました。1回、発言していただいた方には、ちょっと置いていただいて、まだ全くお話を伺っていない方もいらしたものですから、ということでございます。

すみません、お待たせしました。

○参加者 先ほど風評被害の話が、消防の話もありましたけれども、現実にあるものは、そのままなのであって、それを大体、規制庁の人が、現実にこれだけの事故があったにもかかわらず、風評被害を払拭するために外国に行っている、その感覚そのものがどうも納

得できないわけですね。事実として汚染されているわけだから。そのためにモニタリングポストが配置される。あれを見て、あっちの国の言っていることが正当に評価していると私は思いますよ。

それから、今度は資料の関係ですけれども、7ページとか8ページに出ている資料なんです、平均値という書き方になっているんですね。それで、私のほうの市のほうから各地域の学校とか線量の表、昨日、配られたやつを見たんですけれども、どう見たってこの数字とは合致しないわけね。それは、当然でしょう。片一方は平均値だから。当然、少ないところにある線量計が多ければ多いほど、全体数値は下がるわけですよ。だから、この数値、このグラフから見て、どうも認識のずれが、もう、そこからあるなど。だから、喜多方市の実態をこうやって把握して表にしたつもりでしようけれども、そこにはもともとの作為的なものを感じてね。

我々は、そうじゃなくて、あの市の広報を見て、ああ、この地域はこんなに高いのかなと、ここはまだこうなっているんだなという意識で見ているわけですよ。ところが、この表を見ると、本当に低いです、はっきり言ってね。そんな実態ではないんですよ。

だから、そういう意味でいうと、あなたたちは皆さんの意見を聞いていると言うけれども、先ほどの第一原発の現状もそうだけれども、それこそNHKのニュースなんかでもやっけていても、こんな穏やかな、あなたたちの資料にあるような穏やかな現状ではないんですよ、福島県。ニュースにも出る。先ほど試算したモニタがあったということも含めて、あるいは地下水の問題も含めて。

だから、そんなに穏やかな状況でないにもかかわらず、あなたたちの資料は喜多方市も含めて穏やかになっている、低くなっていると。こういう資料になっているので、この資料そのものが、それこそ初めから意図的に作成されたものだというふうにしかならない。だから、あなたたちは皆さんの意見を聞きながらと言うけれども、一つの問題提起をして、そこから討論を始めると言うけれども、その出発点そのものが大きくずれ込んでいるということについて、私は問題だというふうに。

それから、先ほど山の山菜もの話もしました。私の家は山が近くにありますがけれども、本当にキノコ類関係は特に食べられないのです。出荷もできないんです。それで、これからの環境だって、毎年毎年、異常天候というのが今、常態的なこの時期になってきている。この気候というかね。そうすると、いつ大水が出て山から出てくるというものだって、しょっちゅう起きてくる可能性も出てくる。山のほうには、そういう意味でいうと、放射性

物質がまだ沈着しているわけですよ。そんなことも含めて。

それから、第一原発のこれからの現状を考えて、どういう発想でね。本当、何十年もかかるようなスタンスで考えなくちゃならない対応に対して、こういうスタンスで、これ、今さらリアルタイム線量計も含めて撤去という話が出てくるのか全くわからないというふうに思います。私はもう反対です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。最初に平均という話がございましたけれども、この辺のところ、ございますか。これ、次のページのここもそうなんですけれども、より1台ごとにどういう状況かというのが次のページの棒グラフなんですよね。だから、そういう意味では、全体的に低いほうにあれば、当然、平均値は下がると。ただ、高いところもありますね。ここの一番右端のところは0.1というのもありますけれども、そのところに2台はこういう値のところになっていますということも、これも事実でございますので、改めて、そこは申し上げたいと思っております。

それから、周りの環境の話と、それから原発の話、最後いただいたというところがございます。我々は、今、この喜多方のこの地域の周辺の線量がこういう状況でございます。それに対して、いや、会津のほうも含めて、まだ山には線量が高いところがあるんじゃないかということは、ちょっとここは置いておいていただいて、ここの線量を測定している位置については低く安定しているという現状を御説明して、当面、残すべきものというのは5kmメッシュ、10kmメッシュの、この可搬型を残させていただきたいということでお示ししたわけなんですけれども、それに対して御意見をいただきたいというのが、この場でございます。

どうぞ。

○参加者 2点ほど、私は撤去に反対する立場で聞きたいと思いますが、一つ、先ほどから線量の問題が出てはいるんですが、喜多方市で月に1回、原発事故が起きてから、こういった喜多方市環境放射線モニタリング情報を出しているんですね。最近の最新情報となっていますが、今日、私、喜多方市でモニタリングポストで初めて公表された平成24年5月15日の情報を持ってきたんです。私は1号から全部とってあるんですが、先ほど平均された資料も出ているんですが、このときの24年5月の段階で非常に低い数字になっている。平均化されたために。このときの塩川町の保育所、小学校、中学校がどのぐらいあったのか、御存知でしょうか。

○南山総括調整官 今、手元にないものですから。

どうぞ。

○参加者 言いますね。塩川保育所、0.231、託児ルームこすもす、0.302、喜多方市姥堂保育所、0.255、駒形小学校、0.211、公園にいけますと、塩川町の公園に行くと、東小学校が0.23、日橋川公園、0.31、中央公園、0.33、ここへ皆さん方が出した資料の倍以上の数字なんです。

だから、喜多方市でも、こういうところがあるんですね。こういうところは、今も高いんですよ。間違いなく。よくホットスポット地帯と言われますけれども、こういうところが近くに存在するんです。これを平均化して見ちゃいますと、何だか低い場所しか見れないんです。私たちは、どこの地点が高くて、どこの地点が低いのか、一つ一つ認識していく必要があるわけですよ。そこに住んでいる人がいるわけですから。そういう視点が規制庁さんのこの資料で全く欠けている、これが欠点だと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。今、言ったように、ポストが固定してありますので、どうしても、その点と、今、サーベイメータではかった地点とは違うとは思いません。

○参加者 だから、ここよりも高いところもあるわけですから、その高いところというのは撤去したらだめだと思うんです。一つね。

○南山総括調整官 例えばですね……。

○参加者 聞いてから答えてください。いいですか。もう一つは、第一原発の現状です。第一原発の現状が、何かね、この資料を読むと、今も出ましたが、非常に安全で安定していて、感じで読めないんです。現状を見ますと、事故後に原子力非常事態宣言が発令されていましてね。それが、まだ解除されていないんですね。……なのに。廃炉作業を進めていますけれども、人間が近づけないために、即死しちゃいますから、近づけないから、高線量で即死するような値が出ているわけですよ、ところによっては。だから、遠隔操作、ロボットを使って作業しているわけです。そうですよね。これからも作業をやっていくわけです。

一つだけ例を挙げますけど、第一原発の1号機と2号機の排気筒の問題があります。これは縦120mの鉄塔になっていますが、これが地震と爆発によって壊れているわけですね。そうですよね、接合部が。最初、8カ所だったけれども、後から、また見つかったみたいですよけれども、これを早めに撤去しなくちゃいけないという声があったはずなんです。しかし、それも線量が高いためにまだやれていないんです。やっとな、腰を上げてやれるよ

うな状況になったと思うんですが、それも遠隔操作をやらなくちゃいけないので、筒と同じようなものをつくって、そして遠隔操作で実験的にやっている。いつになるか、わからないわけですからね。……やっているわけですから。もし、その排気筒が、その間に工事が始まるまでの間に倒壊するようなことになったら、大事故ですよ。そうですよね。だから、本当、すごく危険な状態にあると思うんですよ、第一原発は。

がれきも、これは大気中の放射能濃度が基準0以下だと書いてありますけれども、がれきも増えている、増える一方なんです。汚染水が、ALPSで処理してもトリチウムが残った汚染水はタンクへ保存されちゃうんですよ。タンクが満杯がたくさん。そのタンクさえも、汚染廃棄物になっているんです。そうですよね。それが、ずっとこの間増えているんですよ。これからも増えていくでしょう。そんな状態で安定した状態と言えるんでしょうか。

さらに、自然災害なんか、再び地震とか津波が起きたときに、第一原発は無防備な状態じゃないですか。そうなれば、再び放射能がたくさん当たるおそれがあるわけです。そうなった場合に、今、各学校、保育所等でリアルタイム放射測定システムが設置されていますが、現場の先生方は何を見て判断すればいいんでしょうか、撤去されたら。子どもは無防備です。それを指示するのは学校の現場の先生でしょう。なくなったら、どうなるんですか。放射能は目に見えないんです。色がありません。においもありません。頼りになるのは、このモニタリングポストだけなんじゃないですか。非常に、ですから、規制庁さんの考え方は甘い、そう言わざるを得ないんです。

○南山総括調整官 よろしいでしょうか。ありがとうございます。さまざまな発電所のリスクがあるということは十分承知しておりますし、それに対して我々も常時、監視して監督して規制をかけているということは、これは現状、そうなっておりますので、そうしておりますので、ぜひ、我々もそうですけれども、現状の原子力発電所の、もし機会がありましたら、こういう現状だということを確認に行っていただきたいということもありますし、今、おっしゃったようなことがいまだにあるということは事実でございます。

それから、学校の先生が生徒に対して放射線のことをきちっと示せるのはモニタリングポストだけだというお話ですけれども、先ほどから申し上げますけれども、学校にもサーベイメータを置いてありますし、と聞いております。それだけでなく、要するに、目に見える形で置いてある今のモニタリングポストは、これは、かけがえのないとまではおっしゃっていないと思いますけれども、今、現状、知り得る有効な手段だというふうに

思っております。それは私どもも思っておりますので、そここのところは。ただ、これが唯一の方法かどうかということは、十分に検討してまいりたいと思いますし、御意見をいただければと思います。ありがとうございます。

ほかに。どうぞ。

○参加者 私、仕事上、医薬品製造業という部類に属しています。品物は、そう言うところあまりぴんとこないかもしれませんが、薬草類を扱っております。これで原発事故の影響をまろに受けまして、売り上げは大体半減でございます。そういう影響を受けております。その損失とか、それは東電の相談室のほうに相談しておりますので、それはここで申し上げるつもりはございません。

ただ、当時の、爆発した当時、岩手県のほうの南部、それから新潟県と長野県の県境周辺、この辺で採取されたもの、これからも国の、国のというのは、我々のほうで規制がかかるのは厚労省の監視・指導、麻薬対策課長通知が23年10月14日に出ました。そして、追って12月13日に具体的な数値が示されたわけでありましてけれども、それが現在も生きています。その指針で動いています。それで、当時、私のところで扱っているものの遠くで、遠隔地で採れたものからも検出されて、やむなく処分をいたしました。

それから、今年です。今年の6月、先月の6月に5検体を日本食品分析センターに検査を依頼した、これは線量じゃなくて核種検査であります。線量検査は意味がなかったんですね。原発の事故当初はものすごく、そこにある線量計も含めて、何だっけ、郡山にある、そういう、ちょっと忘れちゃった、そこに何回も通ったりして線量をはかっていたきました。

しかし、結果としては、それは全く意味がなかった。核種検査、これをEpという手法を市町村別に管理をなさいと、そういう指示でありましたので、やりましたけれども、今回、6月に検査をしたのは、山形の飯豊町2検体、それから米沢の2検体、ここは毎年、事故後も統一品目で、これだけは離したくないということで、今も採取をお願いしています。このうち半分は28Bqと38Bq、これが検出されて流通することができません。収穫量とすると、半分以上です。これは、うちの倉庫で今、眠っています。

それから、今年から、事故前までやっぱり産地だったんですけども、北塩原、すぐそばですね、北塩原村、ここで採取をお願いしました。これは、原発の23年のときは、すごくいっぱいとってくれたんです。これを復興させたいということで、もう既に7年続いていますので、今年から試しにとってくれないかということでやったら、75Bq。すなわち、

山形の高い数字が出ました38の約倍ですね、そういう数字が今もって喜多方の周辺で出ているということでもあります。

したがって、私は、この線量計、撤去すべきではないとももちろん思いますけど、増やすべきだと私は思っています。痛切に思っております。原子力規制委員会ではなくて、原子力監視規制委員会に名前も改めて増やしてもらいたい。文科省の原発の事故のときに影響を受けたという1都16県の範囲というのは、まだ、この県はなくなったとかという、そういうようなのはありませんね。あるんですか。わからないんですか。17の都県が、その影響を受けたというふうに発表になっているんです。それをもとにして、厚労省は指針を出しているんです。だから、それは全然、変わっていないの。だから、モニタリングポストを撤去するなんていうのではなく、もっと増やすべきだ。

そして、さっきの観光客、この問題も、民友新聞、今、うちではとっていませんけど、民友新聞の毎週日曜日に世界の主要国の放射線量も含めたデータが載っていました。日本の主要都市、それから世界の主要都市。会津よりも、もっと高いところがいっぱいあるんです。だから、原発の輸出ではなくて線量ポストの輸出を一生懸命やって、それで、世界どこでも安心な国を、安心な生活ができるんだよと。ポストがあるのが異常ではなくて、ポストがあるのが当たり前だと。そうしたら、安心をそこで確認できればいいじゃないですか。私は、そういうふうに思います。よろしくお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

まだ、御意見いただいていない方。

どうぞ。

○参加者 市内の……と申します。今、モニタリングポストを増やすべきだというお話がありまして、賛成です。むしろ、土壤の測定というのは、やって、私たち一般市民としてはデータはよくわからないんですが、原発のところ……、小学生が田んぼに入って田植えしたりするなんてことあるものですから、それでまずいんじゃないですかと市教育委員会に電話したら、いや、空間線量ではかっていますので、規制値といいますか、数値ないですから大丈夫ですよということで、2回ほどやったんですが、結局、空間線量で判断しているというふうな行政の判断基準みたいで。むしろ土壤の、さっき司会者の方も放射性物質は土壤に沈着したというふうに、地面に沈着したとおっしゃいましたけれども、沈着したら、その土壤の、一筆ごとの汚染状況をきちっとはかって公にするということも、さっきモニタリングポストを増やすということのほかに、土壤汚染の実態をきちっと数字で公

表して、こういう状態ですから安心ですよとか、こういう状態なんですよということを数字的にきちっと公にするべきなんじゃないかと思うんですが。そこは、今、やりたがらないというふうにはとれるんですが、そこのところはどういうふうにお考えですか。

○滝田補佐 土壤汚染については、国もですし、県もですし、例えば、農地等についても農林水産省、各省庁がそれぞれの分担のところできちんと測定をして公表しております。

○参加者 行政区ですか、一筆ごとというのとは。

○滝田補佐 一筆ごとというのとは、どういう範囲か、ちょっとよくわからないんですけども。

○参加者 どの範囲といたしますか、どの規模ではかっていらっしゃるんでしょう。はかっていますよというふうにおっしゃいまして、各、農林省とか何か……。

○参加者 市町村単位とか、畑単位とか。

○滝田補佐 ちょっと、今、ここに正確なデータがございませんので。

○参加者 何々町という、大きな……。

○滝田補佐 一応、規制庁が私のほうで委託事業をやっている部分に関しては、基本的に80km圏内が、第一原発から80km圏内の範囲についてなんです。メッシュで何kmメッシュか、ちょっと今、出てきませんが、メッシュで数kmメッシュで1カ所というのを代表的なところを選んで、サンプリングして分析しております。

○参加者 数kmメッシュ。2kmメッシュ。

○滝田補佐 2kmか、だから、すみません、その辺、ちょっと今、データがございませんので、申し訳ありませんが。メッシュで。

○参加者 喜多方辺りは、約、原発から100km……。

○滝田補佐 そうですね。喜多方のほうとしては、私が担当している事業の中では該当はしておりませんが。

○参加者 私というのとは、文科省ですか。私のおっしゃるのは、文科省のというふうな意味。

○滝田補佐 原子力規制庁です。それ以外に県が全域的に、ある程度、メッシュでやっているという情報はございます。農地に関しては、やはり全県の中で各自治体ごとにまとめて公表しているというふう聞いております。

○参加者 自治体というのとは、喜多方市とかという……。

○滝田補佐 そうですね。各自治体ごとの単位で、どの程度、農地としての対象かという

のは、正確には私、ちょっと存じておりませんが、その辺のところは農林水産省のホームページを御覧いただければわかると思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 喜多方市の環境課の方がいらっしゃいますので、やっているかどうか、お聞きしてもいいですか。やっていらっしゃいますか。

○喜多方市環境課 そういったデータは、今、ちょっと手元にはございませんが、確認したところ、環境課ではやってございません。ただ、農業担当のほうで過去にやったことがあるかもしれませんが、すみません、その辺の正確なところはわかりません。

○参加者 そういうふうに、今、現自治体では答えがあるんですが、今のお話だと今のと整合しないんだと思うんですが、どうですか。

○滝田補佐 あくまでも農林水産省のほうの話なので、自治体ではなくて農林水産省で直接やられている事業でございます。

○参加者 喜多方市の農林課じゃなくて、ここで言えば、喜多方で言えば、合同庁舎に農業普及所とか工業何とかという県の施設があるんですが、そこで聞けばわかりますか。

○南山総括調整官 細かいことを知らなくて申し訳ないんですけども。

○参加者 いえいえ、細かいことじゃなくて、どこに聞けばデータがわかるかと。

○南山総括調整官 農地のことは、やっぱり農林水産省にお聞きいただくのが一番、確かだと思います。そこは、よろしく願いいたします。すみません。

意見、まだの方がいらっしゃいますので、すみません。

お待たせしました。どうぞ。

○参加者 ちょっとピントがずれている部分もあるかもしれませんが、御容赦願います。

モニタリングポストを撤去するという事は、規制委員会の学識経験者の5人の方の総意ということで、もうそろそろ、これ以上、高くなる見込みはないから撤去したいと、予算の無駄だというような形で示されたものなんですか。

○南山総括調整官 後半は違います。今、現状、はかっている線量が低くて安定しているので連続的に測定する必要性は低い、これが結論でございます。

○参加者 わかりました。それから、ここに一応、国から規制庁の職員の方、6人ほどお見えになっていますけれども、福島原発地域には、皆さん、一回は行かれたことがあるんですか。誰も行ったことない。

○南山総括調整官 行っています。

○河村上席専門官 私は福島第一規制事務所の人間ですので、どのサイトにもほぼ毎日、入っていますので、中の現状もよくわかっています。

あと、それから、私、モニタリング専門にやっていますので、もともとがIFの中というよりも外側ですね。皆さんがお住まいのところの環境の放射線とか放射能の測定を専門にやっておりますので、私の手元には県内のモニタリングデータが毎日、入ってきまして、ですので、喜多方市のデータも含めて、入ってきているデータには全て目を通してという状況にあります。

○参加者 詳しい方が、専門の方がおられるということで安心しました。事務方の方は、一般的に偉い人の、例えば、オリンピックを日本で招致すると、原発はおさまっている、大丈夫だというようなかけ声でオリンピックを引っ張ってきて、それに今度は聖火リレーも福島からスタートだと、ついこの間、やっていたので、事務方の方が、そういった偉い方に非常に付度して、ああ、それが当たれば福島がオリンピックをやるのに国際的にイメージダウンだなというところから出発しているのであれば、とんでもないことだと思っていたんですよ。そういうことは絶対、あってはならないんです。

福島の、あえて政治家という方は地元に来ませんからね。以前、ちょっと接触して、これは大丈夫だからという……。そういったことで、すぐ帰られてしまうということで、非常に腹立たしいわけですが、そういった方のもとにいて、事務方は事務方としての正義感を持って取り組んでいただきたいというのが一つ……。長いものに巻かれてじゃなくて、いや、そんなことじゃだめだと。

今回、わざわざ、こういった説明会が喜多方で開かれると、これはありがたいことです。福島の生の声を、喜多方の生の声を聞いていただくということでありますから。ただ、心配なのは、皆さんが1基当たり、どのぐらいモニタリングポストを、500万かかるのかどうか分かりませんが、予算じゃないんですね。人の命がかかっているわけですね。先ほどもありましたが、放射能は目に見えない、においもしないということでもありますから。

大熊、双葉辺りからここまで、ちょうど100kmか120ぐらいあります、直線距離で。もう一個、心配していますのは、風向きでは再稼働を狙っている刈羽、柏崎。あの原発をやったら、季節風で首都圏よりも東北のほうに全部、風向きで来るのではないかと。あちらのほうは120kmか130kmです。120kmぐらいですね。

今回、たまたま風向きで海のほうに放射能の大半が流れたようで、太平洋側、アメリカのほうに行っているという話ですけれども、これが新潟で万が一、米山さんから花角さんですか、知事が変わりましたが、政府寄りの考え方を持っている方が知事になりましたので、東京電力が、このときだとばかりに、もう地元の声も無視して再稼働に着々と意欲を示しているように報道されています。そうした場合に、会津などはひとたまりもありません。同じ県内よりも、かえって新潟にある原発のほうが非常に厳しいです。

予算が33年3月で打ち切られるから、だから撤去するというのは、これはだめですね、絶対に。許されません。人の命です。喜多方でも、甲状腺のがんが3人ぐらい……されているんですよ。10万人に対すると、とんでもない率になるんだろーと思いますけれども、そういった中で、住民が、喜多方市民が安心してこれからも生活していくためには、どうしても目に見えるものが欲しいんです。それはモニタリングポストしかないと私は考えます。ですから、絶対に撤去してもらいたくないと。引き続き、金はかかっても置いてもらいたい、そういう一心でおります。

○南山総括調整官 ありがとうございます。貴重な御意見をいただきましたと思います。ただ、先ほど、1点だけ。柏崎から距離が120とおっしゃったのは、この喜多方がそのぐらいの距離と。その途中で只見とおっしゃいましたけど、只見ということではないですね。

○参加者 只見……。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかに。後ろの女性の方。

○参加者 市内で子どもを産み、育てております主婦になります。子育て世代の人間として、ちょっとお聞きしたいと思います。一つ質問があるんですけども、10ページに記載されています可搬型モニタリングポストの丸の数を数えると、市内に8台あるようなんです。うち5台は恐らく各庁舎にあると思うんですけども、残りの3台というのは、すみません、私、無知なもので、どこにあるのかというのが存じ上げないものでして、こちらの場所を規制委員会の方というよりは市役所の方に教えていただきたいなと思います。

要は、何が言いたいかというと、「モニタリングポスト、どこにあるの」となったときに、私たちからすると、一番手っ取り早くわかるのが、子どもの学校に行ったらあるよというのが現状なんです。どこにあるのかがわからないという状況では、やっぱり安心というのはすぐに得られないのかなということで、今、各学校とか幼稚園に、公園にもあると思うんですけど、置いていただいているのはすごく助かっています。

一つとしては、貸し出し式の線量計が、いつでも、どこでも借りて見ることができるよということでお話をいただいたんですけど、私の家は夫婦共働きで働いていますので、庁舎があいている時間に借りに行くことができないというのが正直なところなんです。土・日、祝日に借りられるわけでもないですし、平日の日に、じゃあ、いつも、申し訳ないんですが、児童クラブとかに子どもを預けているんですけど、ぎりぎりにお迎えに行っているような状況なので、なかなか、やっぱり、借りられるよと言われても借りるのが難しいので、そういったときに、お迎えに行った児童クラブの入り口のところにちょうどあるんですけど、それを見て、今日も動きがないから安心だなと思ってお迎えに行ける環境というのは非常にありがたく思っております。

そんなにうまく表現できないんですけど、時間を知りたいなと思うときって、皆さん、時計を見て、今、何時何分だと思われると思うんですけど、同じような感じで、今、じゃあ、放射線量、どのくらいあるのかなと思ったときに、気軽に私たちが見ることができるのがモニタリングポストでありますので、そういった意味で、私たち子育て世代の安心につながっておりますので、ぜひ、どこにあるかわからないというのではなく、身近にあるものとして継続していただけたらなと思っております。

○南山総括調整官 ありがとうございます。こちらのほうで、貴重な御意見ありがとうございます、どこに設置してあるかというのは、可搬型、わかりますか。

○武山監視情報課長 可搬型モニタリングポストの場所ですね。まず、押切川公園、それからおぐに交流の郷、それから塩川総合支所、それから大田木浄化センター、それからふれあいランド高郷、あとは熱塩加納総合支所、それから、いいでのゆ、それから入田付小学校根古屋分校、こちらで全部で8カ所でございます。

モニタリングポスト、我々規制庁、規制委員会、規制庁のホームページで、喜多方市のモニタリングポストを全部、場所と何 μ Svという値まで全部、出るようになっていきます。それを見ていただくと全て見れるようになっていきますので、ぜひ御覧いただければと思います。

○南山総括調整官 どうぞ、3番目の方。

○参加者 2点、大きく2点なんですけど、市内に住んでいます……といたします。

一つは第一原発の現状のことなんですけど、私は、これは原子力規制庁のホームページに載っているんですけど、これは間違いないと思うんですけど、私たちが一番心配しているのは、廃炉がいつになるかわからないし、まだ人が入れない、入ると、すぐ亡くなる、死んでし

まう、そういうような状況があるということで、いつまた何が起こるかわからない、そういう不安を常時抱えながら、ここで生活をしているわけです。

安全だ安全だと言われるんですけど、全然、根底がないわけですよ。そういうことで、モニタリングポストというのは、私たちが安心・安全を得るとともに、私は、私たち自身が放射線の現状がどうなっているのか、本当にきちんと安心・安全なのかを私たち自身が国、規制庁の人たち、東京電力がやっているかどうなのか、監視する私たちの大事な目だと思っているんですよ。見えないわけですから。

私も、非常に、そういう点で、国に対してははっきり言って不信感がものすごく強いです。なぜならば、放射線の現状についてもSPEEDIがあったんですけど、それが公表されなかったんです。そういう現状なんですよ。私たちが被害をものすごくこうむったわけですよ、不安を。同じなんですよ、今。それを私たちに担保するのが、今はモニタリングポストだと思います。やっぱり、それは、もう予算の問題じゃないんですよ。本当に廃炉になるまで、きちんと福島には目に見えるようなモニタリングポストを私たちの生活の近くに置いておくと。

私も、前の方が言われたように、もっと私たちは周りに必要だと思います。学校で置いてあるといいますが、学校の昇降口のところに大体1カ所なんですよ。校庭の中央、遊具があるところ、木が生い茂っている、ずっとケヤキの木とか桜の木なんかがありますよ。そういうところなんか、線量、この倍くらいあるんですよ、実際。今でも、だから喜多方市では、モニタリングポストの場所だけでなく、学校では3カ所はかっているんです。昇降口、そして校庭の中央、そして遊具とかがあるところ、3カ所。あと砂場をはかったりね、皆さん、不安を持っているんです。実際、1.5倍から倍くらい、今でもありますよ。そういう現状のあれで、本当に心配しながら、低線量でも大丈夫なのかな、そういう不安を持ちながら私たちは過ごしているわけです。

ですから、何としても、そういう市民感情を見ても、予算が10年間だから、こんなことを担当者として言っていていいのか。政治家に対しても、本当にこれは必要でしょうという、そういう声を行政の側から、担当者の側からもしっかり上げていただきたいなと私は思います。よろしくお願いします。

○南山総括調整官 御意見ありがとうございます。市の方が校庭で、学校の先生方がはかっているらっしゃるということも承知してございます。そういった苦勞をかけているということも、我々は存じております。今後も、それを続ける必要があるのかどうなのかという、

これも勘案しなきゃいけないところだと思います。現状を見てですね。

発電所の話は、先ほど申しあげました、繰り返しになりますけれども、引き続き国としてもきっちり監視していきます。それを現場で見に来ていただくということも大事ななど。皆さんにも、どうぞ、現場のほうにも来ていただきたいというふうに思っております。これは、一つ、言うなれば現状を正しく認識するための一番大事なことだと思いますので。我々も、今後とも現状に甘んじることなくやっていきたいと思っております。

大変恐縮でございます。一番最初にお話しただいて、意見もあるんだという。どうぞ。その後、後ろの方。

○参加者 時間も過ぎたから、きっとお急ぎなんだろうと思いますので、細かいことは言わないで簡潔に言います。

まず、モニタリングポストの撤去は反対です。主な理由は二つあります。一つは、皆さん、お話ししているように、山が除染されていない。半減期の長い放射能は、ほとんど山の土壌や樹木や、その辺にたまっているんだろうと思います。西日本水害じゃないですけども、何かあったら、土砂崩れも含めて、何かあったら、それは私たちのほうの里のほうに来るものだと、そう思っています。そういう心配が一つです。

あとは、第一原発、まだ私は収束している、収束という言葉は使っていないからあれですけども、あと廃炉が終わっていません。第二原発の廃炉もあります。ですから、最低でも第二原発の廃炉が終わるまで、モニタリングポストは撤去しないでいただきたい、そういうふうに思います。

感想も含めて言わせていただきますと、会の進め方の中で、正直言うと、ちょっと気になるところもありました。それは、きっと、私たちが原発事故の被害者だと思う被害者意識と、そうでない人の立場の違いなのかな、そういう思いで意見のすれ違いを聞いております。

最後、ちょっと気になりましたので。今、市独自でやっている調査、検査について、指導の形で規制を加えることは、それはやめなさいということも含めて、そういうことはしないようにしていただきたいなど、蛇足ながら1点付け加えさせていただきます。

○南山総括調整官 すみません。最後のところ、指導も何もしていません。私ども以上に市当局の方が一生懸命、汗水流してやっていらっしゃるということを御紹介というか、我々も認識していますということを申し上げただけであって、こうしなさい、ああしなさいということを書いていませんので。すみません。

どうぞ。

○参加者 私も、撤去に反対するという立場で一言だけ発言したいと思います。それで、なぜかといえば、原子力緊急事態宣言というのが解除されていないわけですよね。規制庁、規制委員会の方も、今後の廃炉作業でどんなことが起きるのかわからないと言っているわけですよね。そういう中でも、ここにおられる課長ですか、モニタリングポストの役割は終わったんだという発言をしたと聞いているんですけど、本当なのかどうか分かりませんが、とんでもないことだと思っているんです。

○南山総括調整官 いや、そこは違います。すみません、話の腰を折っちゃって申し訳ない。時間もあって。モニタリングポスト全部を撤去するというものではありませんので、そこは十分、御理解いただきたい。それから……。

○参加者 いやいや、私が聞いているのは、交渉の……やったときに、その役割がもう終わったんだと、線量が低いもので、24時間連続して測定する必要がないので役割は終わったんだというようなことを言ったと聞いているんですけど、役割が終わったところじゃないと思うんですよ。今後、どんなことが起きるかわからない廃炉作業があるのに、それも20年も30年も40年もかかるという中で、そんな発言をするというのが本当に無責任だと思うんです、私は。

それと、もう一言付け加えたいのは、過去の規制庁、規制委員会が原子力は安全なので事故はないんだと、そういう安全神話をつくり出す一翼を担ったことは間違いないんですからね。そういうことを絶対、忘れてもらっては困ると思うんです。以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。ちょっと時間もあって、まだ言いたいと思いますけれども、今のところを、じゃあ、もう少し行政として。ちょっと待ってください。監視情報課長から。

○武山監視情報課長 私が申し上げたのは、先ほど南山も言いましたけれども、モニタリングポスト、低く安定しているところ、これについては連続する測定の必要性が低いだろうということは、規制委員会でもそのような考えがあったということであって、それは我々は、私のほうは、それは役割じゃないと、役割も終わっているんじゃないかということの言い換えをしたわけです。

今日、御意見をいただいて、まだまだ、実は、皆さん、モニタリングポストに頼っているんだということはよくわかりましたので、そういう意味からすると、皆さんにとってはまだ役割は十分あるんだと、こういう御認識だということは理解しています。

それから、あと安全神話の関係ですかね。ちょっとわからなかったのは、実は、先ほど原子力規制委員会は何をやっているところだという御質問があったと思うんですけども、我々、原子力規制委員会は、先ほど言った安全神話も含めて、以前、原子力規制委員会がないときに、3.11のときに事故が起きたわけですけども、そのときにも、事故の反省及び先ほど言った安全神話、こういったものがはびこっていたということの反省に立って、原子力規制委員会という新しい組織ができたんです。そこは、5人の学識経験者の委員が、むしろ安全神話ということにならないように、科学的に、まさに、よく言われている絶対に安全はないんだという観点に立って規制をつくっていくんだという強い意志のもとに、つくられている組織だということで御理解いただければと思います。

○参加者 今までの話では、それが全然伝わってこないんです。

○南山総括調整官 もし話が伝わっていないようでしたら、これは進行役の私の責任でございます。ただ、時間を超過して大変申し訳ございません。もう少しよろしゅうございませうか。

では、どうぞ。

○参加者 それでは、絞ってお話ししたいと思うんですが、私、……のナガサワと申します。

先ほど発言の中でありましたように、甲状腺がんの関係について私も触れたいと思います。いわゆる物の本には100万人に1人、2人、これは自然の状況かどうかわかりませんが、そういった本が文献なんかであることは承知しております。今、福島県内、200万人、人口は切っていますけれども、私の調べたところ、209人、甲状腺がんがいらっしゃるし、あとは、先ほど喜多方でも3人という話もありましたけど、多分、その程度、喜多方にもいらっしゃるんだろうと思います。

そういう意味では、先ほどの話の中で、このモニタリングポストを設置するのは子どもへの影響を考慮してという話をされました。私は、この数字では、どこの世界に行っても、早めに計測したからいっぱい出たんだと、そんなような昔の話では決して私はないと思います。それぐらい、この原発事故が子どもたちに影響を与えたのは事実だと私は思うんですよ。そして、確かに、学校の教育の問題とか言葉ではたくさんありますが、いずれにいたしましても、これから、今、お話がありましたけれども、第二原発廃炉、私は、それ以降も本当に安全が監視できる、安全が確認できるまでは、私はこのことをもう最低、してほしい。モニタリングポスト設置は最低限なことだと私は思いますよ。監視ができるとい

う意味で。そのことを、やっぱり責任としてやり続けるべきだというふうに思います。以上です。

○南山総括調整官 大変ありがとうございました。

本当に進行の下手際もありまして、時間が超過してございますが、お話どうぞ。すみませんが、マイクをお願いします。

○参加者 タカハシといいます。よろしくをお願いします。

今日の説明ですと、低く安定しているからだというようなことでして、撤去するんだよということですね。放射線というのは時間の経過とともに低くなるのが当たり前だと思います。そうですね。ただ、「安定」という言葉はちょっと違和感を覚えます。たまたま、現状、低い値で推移しているというのが適切な表現ではないのかなと思います。これから何が起きるかわからない、明日、起きるかもわからないという現状だと思いますので、「安定している」という言葉、表現は使っていただきたくないなと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 それから、出発点そのものが、低い値で安定していることから、平常時のモニタリングに戻していくよう云々、これ、3月23日訂正版の原子力規制委員会で書いてありますけれども、平常時なんですか、今。平常時なんですか。原子力緊急事態宣言は解除されたんですか。平常時ではなくて非常時でしょう、解除されないということは。だったら、国の責任として線量計を継続して設置していくことが責任のとり方だと私は思いますので、よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 御意見ありがとうございました。

大変恐縮でございますが、時間が超過してございます。ほかに、もし、よろしければ、これもちまして……、どうぞ。

○参加者 今まで皆さんがおっしゃったこと、おわかりになっていただけたと思うんですが、私たちは、もう原発が爆発したときから「想定外」という言葉を、もう聞き飽きるほど聞いてまいりました。もし、これからいろんな、活断層が動いて、それで第一原発、第二原発が、まだおさまらないうちに、また同じようなことが起こったとき、そして柏崎の原発がそういうことで、またおかしなことになったとき、私たちは、このモニタリングが撤去されたとき、何をもとに、どういうふうに逃げたらいいのか、全然わかりません。

「想定外」という言葉は、もう聞きたくありません。ですから、私たちは、モニタリングポストを撤去することを絶対反対いたします。

○南山総括調整官 御意見ありがとうございました。

時間超過して、大変申し訳ございませんでした。こういった意見をいただく場を逐次、各市町村で開催してまいりますけれども、各市町村の皆様方の生の声を聞く、これが我々の趣旨でございます。ぜひ、そこら辺も御理解いただきまして、今後の説明会を円滑に進めさせていただければというふうに思っております。

大変長時間にわたりまして、ありがとうございました。